

みなさまのご協力で緊急救援活動を実施しました。ありがとうございます。

スマトラ島沖地震・津波災害緊急支援事業 お礼と報告

# 被災から1年、緊急救援から復興支援へ

2005年12月1日

(社)シャントィ国際ボランティア会(SVA)

## 12か国で200万人が被災

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震・津波は、インド洋に面したアジア、アフリカの12か国に死者23万人、被災者200万人という大惨事をもたらしました。

震源地に近いタイ南部も大きな津波に襲われ、パンガー県、プーケット県などの6県で、多くの漁村や観光地が被害を受け、死者・行方不明者は約8,000人に達しました。その中でもパンガー県の被害は大きく、犠牲者の約8割を占めています。

## 3日後には救援活動開始 —タイ南部パンガー県

パンガー県の高級リゾート地であるカオラックでは日本人をはじめ多くの外国人犠牲者も出していますが、特に貧しい漁村や島嶼部での被害も大きく、これらの地域では支援の手がなかなか届かない状況が続いていました。

SVAは、タイ事務所の職員が、災害3日後の12月29日から現地に入り、被害状況の把握、救援物資の配布などを行いました。

被災した住民は、漁業、日雇い、観光地での仕事に従事していた人が多く、直接の被害を受けていなくても、観光地が被害に遭ったために仕事を失ったり、被災地の海で獲れた魚というだけで売れ行きが悪くなってしまったりと、「地域」全体が大きく影響を受けました。

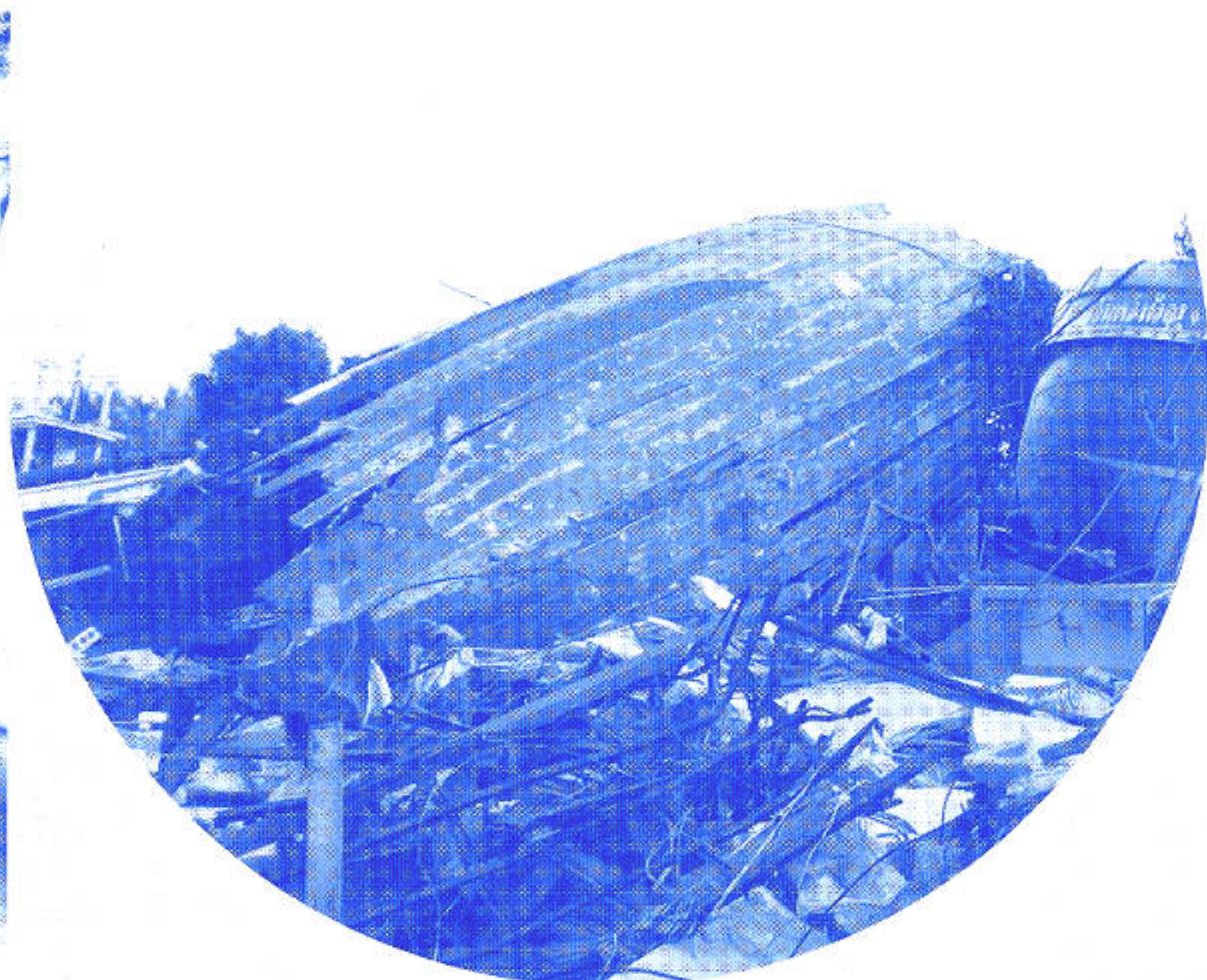
このため、SVAは被災したパンガー県タクアパー郡、タームアン郡、クラブリー郡などのコミュニティを対象に直接・間接的な被災者への支援を実施することにしました。



壊滅したカオラックリゾート/パンガー県



食料、日用品の配布





当初はこれらの地域でもタイ国内外の多くのNGO、企業、政府関係機関が救援活動を実施していましたが、3ヶ月過ぎた頃からは、その数も極端に少なくなりました。災害から1年が経過した現在、見た目には復興が進み、津波の傷跡が見えにくくなっていますが、その影響は被災地域に深く根を下ろしています。

例えば、未だに行方不明者は多く、プーケット郊外にはDNA鑑定作業を待つ遺体が多数冷凍保管されています。さらに、被災した住民の多くが、タイ政府やNGO団体、企業などが建設した住宅に住んでいますが、その大きさや立地条件は必ずしも住民の実状にあったものではありません。そしてなによりも、被災住民はなかなか安定した仕事を見つけられず、生活は厳しさを増しているのが現状です。

こうした状況下で育っていく子どもたちにとっては、当然ながらSVAがこれまで都市スラムや農村などで行ってきたよ

うな中・長期的な支援が必要となってきます。

この災害で子どもたちが受けた心の傷は深刻なものがあり、中でも兄弟や両親など家族を失った子らの悲しみは計り知れません。今回の津波で、これまで住民が生活してきた村や町は破壊され、生活環境は激変しました。被災した子どもたちが、安心して遊び、勉強し、生活していける環境を整えていくには、学校や住居の建設などモノの支援だけではなく、「心のケア」も必要とされています。

## SVAの救援活動の経過

### ① 被災者500人に対して食料などのセットの配布

(2004年12月29日～31日)

・パンガー県タクアパー郡バーンムアン地区(魚の缶詰、塩漬卵、ラーメン、ナンプラー、豆乳、クッキー、食器類、タオル等)

### ② 避難所設営用の機材・物資の提供 (2005年1月4日～7日)

・パンガー県タクアパー郡バーンムアン地区(大型テント32張、給水タンク10槽、浄水器2台、ビニールシート、電気コード、蛍光灯、幼児向け粉ミルク30ケース、ほ乳瓶、湯沸しポット大2台、小2台など)

### ③ 小中学校の児童・生徒に制服、学用品などの配布

(2005年1月4日～7日)

・パンガー県タクアパー郡、ターイムアン郡、クラブリー郡、ラノーン県スックサムラン郡周辺

(小学生用制服3,000着、中学生用制服1,000着、カバン1,500個、学用品セット1,500、ベルト、絵本1,500冊など)

### ④ 「おはなしキャラバン」活動 (2005年1月中旬～)

子どもたちも対象にした絵本の読み聞かせや歌・ゲームなどの移動図書館活動は、直接被災した地域だけではなく、その周辺地域も含めてパンガー県、ラノーン県南部の仮設住宅や保育園、小学校など30ヶ所で実施している。尚、2005年1月中～下旬、そして3月にはSVAのミャンマー難民事業事務所とラオス事務所の協力を得て、被災地域のミャンマー(ビルマ)や東北タイからの出稼ぎの子どもたちも対象に実施した。



給水タンク



学用品の配布



避難キャンプでの読み聞かせ



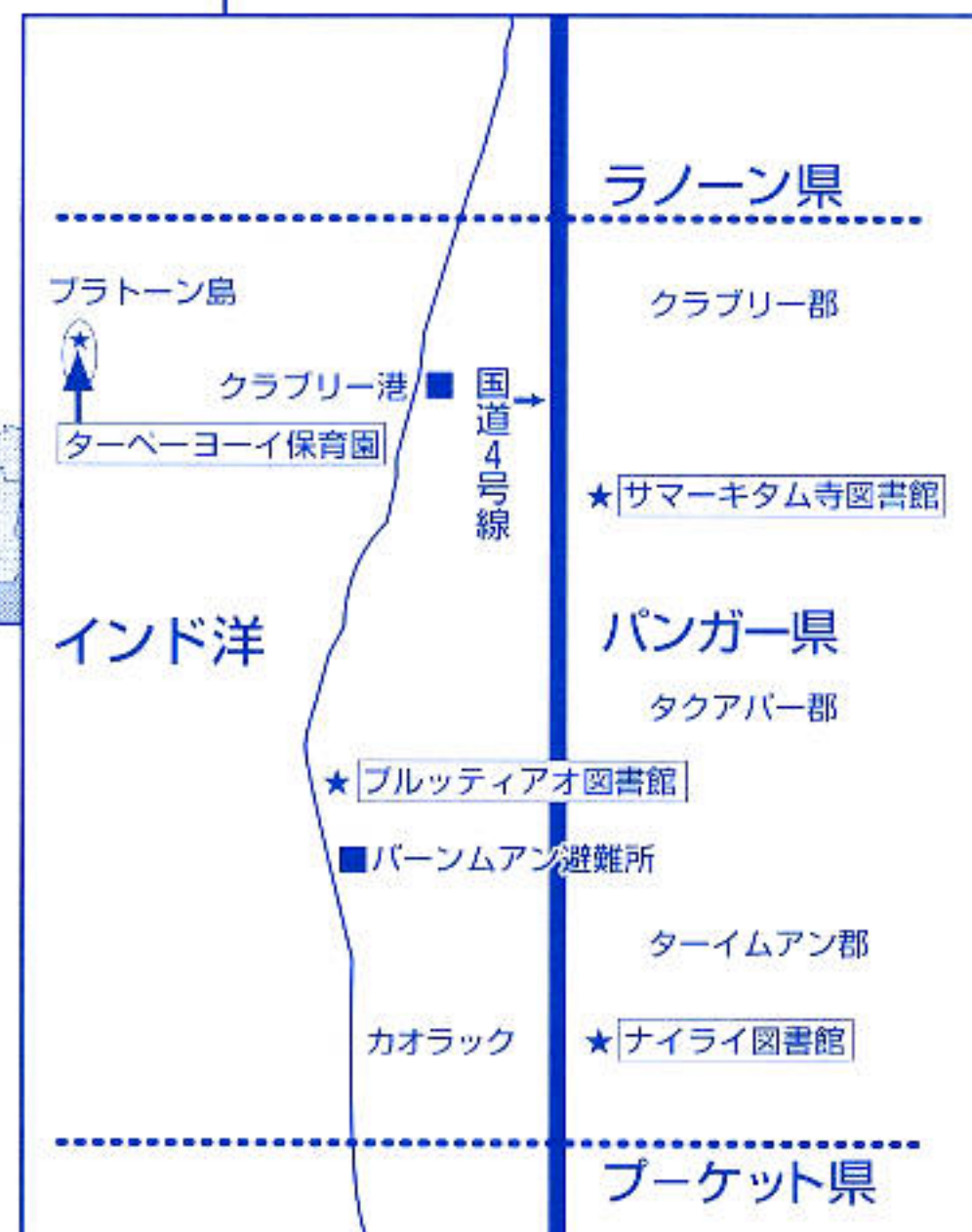
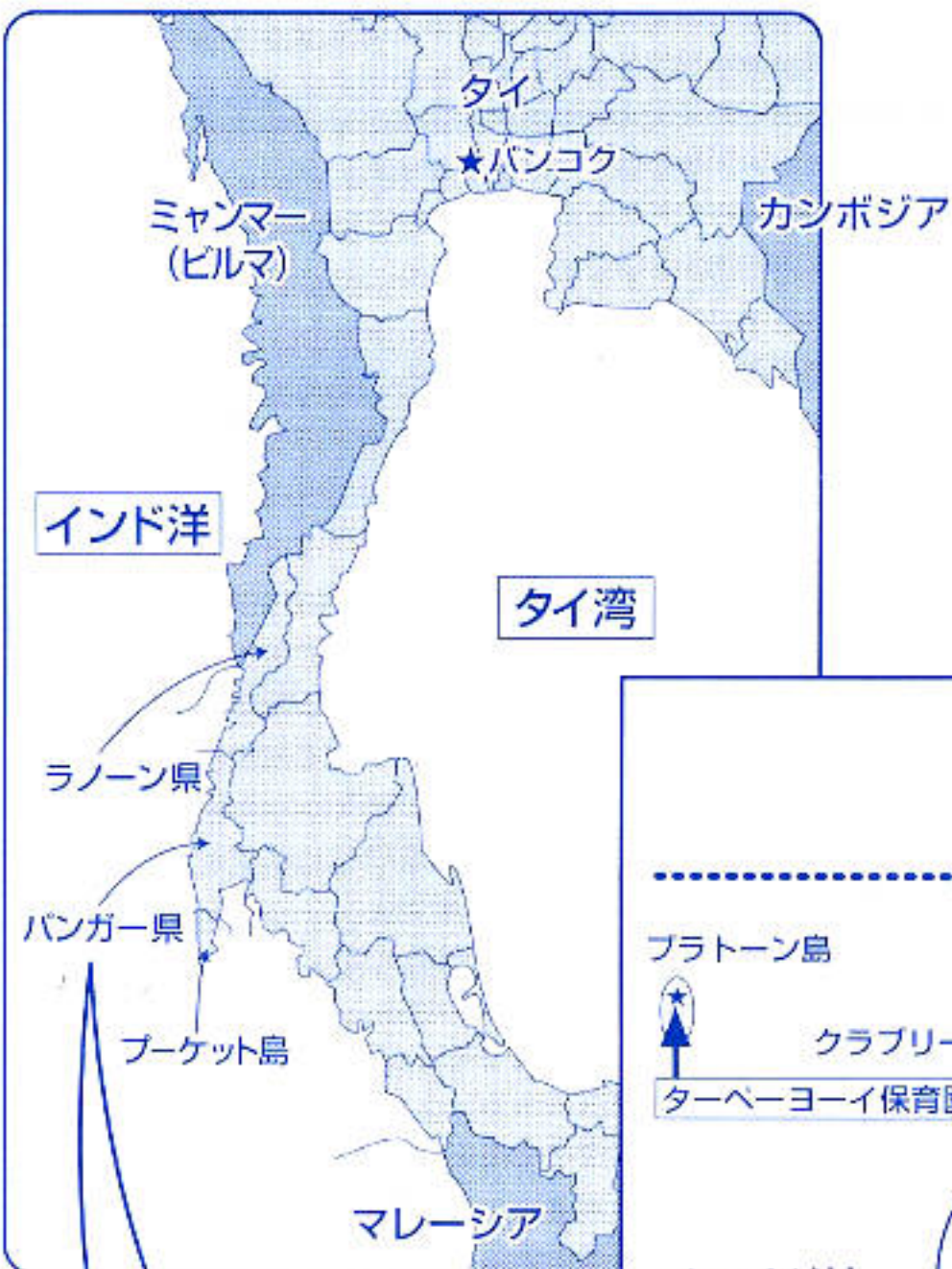
# 子どもの「心のケア」を実施



仮設保育園への図書箱の貸しだし／タクアパー郡



サマーキタム寺図書館／クラブリー郡



## ⑤ 仮設図書館の開設・運営、及び常設図書館の建設 (2005年1月～)

仮設住宅で生活する被災児童や被災地域児童を対象に、「安心できるスペースの提供」として仮設図書館を開設・運営。

### 1月中旬

タクアパー郡バンナムアン避難所内に大型テント仮設図書館を開設(～5月末)。

### 2月7日

クラブリー郡クラブリー港仮設住宅内に仮設図書館を開設(～9月末まで)。

### 5月下旬

バンナムアン避難所の仮設図書館をプルッティアオ仮設住宅内に移転。

### 9月中旬

ターイムアン郡ナイライ地区に常設図書館の建設着工(12月上旬完成予定)

### 10月上旬

クラブリー郡サマーキタム寺内に常設図書館を開設・運営

## ⑥ 図書箱活動の実施 (2005年4月～)

児童書(約40冊～60冊)と図書袋をセットにした「図書箱」を作成。被災地域の保育園、小学校、仮設住宅、教育支援を行っているNGOなどを対象に貸し出しを実施。

これまでに50箱の図書箱をパンガー県内の被災地域に貸し出ししている。

## ⑦ 被災地域の教員との意見交換会 (2005年3月16日)

学校の現況やSVAへの要望などを聞く「意見交換会」を実施。パンガー県、ラノン県の被災地域の教員約30人が参加。SVAは当初からこの地域で様々な支援活動を行っていたため、活動が広く理解され、多くの教員の参加を得られた。被災した離島の学校の教員も参加。

## ⑧ エコ石鹸作りワークショップの開催 (2005年8月27日～28日)

仮設図書館のあるパンガー県タクアパー郡プルッティアオ地区と、同県クラブリー郡サマーキタム寺内で「エコ石鹸作りワークショップ」を実施。この活動は、SVAのタイ法人(シーカーアジア財団)が環境改善のためにバンコクのスラム地区で行っているもので、その経験と技術を被災地域住民の職業訓練と環境問題への取り組みとして行なった。

参加者は約80人で、20～65才までと幅広く、また、海の民であるモーケーンの人々も参加した。参加した住民からは、タイ政府が推進している「一村一品運動」の一つとして地域から提案しても良いのではないか、という声も早くも住民から上がった。



プルッティアオ図書館／タクアパー郡



### ⑨プラトーン島内仮設保育園の支援 (2005年8月～)

津波で壊滅したパークチョック村やトゥンダーブ村のあるプラトーン島は、海岸から4キロに渡って津波被害を受けた。島の内側に位置するターペヨイ地区は直接の被害は免れたが、今も島民の多くがこの地区に避難して、生活している。SVAでは、残された島民と共に、避難した多くの島民がいつでも安心して戻れるように、この地区の仮設保育園の設置、運営、保育士支援を行っている。

### ⑩奨学金の支給 (2005年11月～)

被災した小学生から高校生の約110人に支給した。SVAが仮設図書館や保育園支援を行っているプルッティアオ地区、ナイライ地区、プラトーン島が対象。

### ⑪絵本「稲村の火」の出版 (2005年12月の予定)

日本での津波災害の経験を活かし、津波についての知識を子どもから大人まで広く理解してもらえるように、弘前大学地球環境学科と、海外災害援助市民センター(CODE)と協力し、防災教育教材として日本の民話である「稲村の火」のタイ語版絵本を製作。この絵本は被災地域の学校や保健所などに配布し、また、SVAの図書館活動でも使用する。

### ⑫移動図書館車を新たに製作、運用 (2005年12月の予定)

被災直後には「移動図書館活動」の一つとして、SVAタイ事務所とSVAラオス事務所から計2台の移動図書館車が、被災地に駆け付けて、大活躍した。しかし、それらは通常はバンコク・スラム地区、ラオス・ヴィエンチャン市内で活動しているもので、ここに常駐はできない。

そのため、現在新たな車を購入し移動図書館車に改造中で、12月には完成の予定である。完成後は被災地での図書館活動の一環として活動する。



ターペヨイ保育園／プラトーン島



建設中のナイライ図書館／ターイムアン郡



バンコクから駆け付けた図書館車の前で

## 今後は、「図書館活動」の定着を図ります

緊急救援の段階から、今後は復興支援計画として、パンガー県の被災地域3郡(ターイムアン郡、タクアパー郡、クラブリー郡)において、これまでの支援内容を含めて2007年末までを目途に現地の人々に移管できるよう、受け皿づくりと共に、人材の育成を支援し、活動の定着を図っていきます。今後の具体的な活動は次の通りです。

- ① コミュニティ図書館3館の運営 (ターイムアン郡ナイライ地区、タクアパー郡プルッティアオ地区、クラブリー郡サマーキータム寺内)
- ② パンガー県の被災地域3郡での移動図書館、図書箱貸し出し活動
- ③ 教員対象の「おはなし研修会」の開催 (年1回)
- ④ プラトーン島ターペヨイ村の仮設保育園、保育士支援、図書室支援および児童の給食費支援
- ⑤ 被災児童・生徒への奨学金支給 (約100口)

● 今後も引き続き、ご理解とご支援をよろしく申し上げます。

社団法人シャンティ国際ボランティア会

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館 2・3F

TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220 Email: info@sva.or.jp URL: http://www.sva.or.jp

